

ウサギの飼い主への自宅での与薬に関する調査

<はじめに>

ペットの病気や怪我の治療のために、自宅で薬をあげてもらうことはどうしても必要になることがあります。処方された期間、量を守り薬をきちんとあげられること（服薬コンプライアンスを守ること）は、治療効果に影響するだけでなく、診断の補助となったり、耐性菌の出現を防いだりする意義もあります。

しかし、動物に自発的に薬を飲んでもらうことは難しく、服薬には飼い主の協力が必要です。特に、ウサギなどのエキゾチック動物は、犬や猫のようにフレーバー付きの薬剤や薬を包むトリーツなどが市販されていなかったり、情報が少ない事もあり、与薬に悩む飼い主も多いと感じます。抱っこを嫌がったり、食欲がなかったりする子への与薬は難しく、またストレスや事故のリスク、飼い主の心身の負担となることも考えられます。

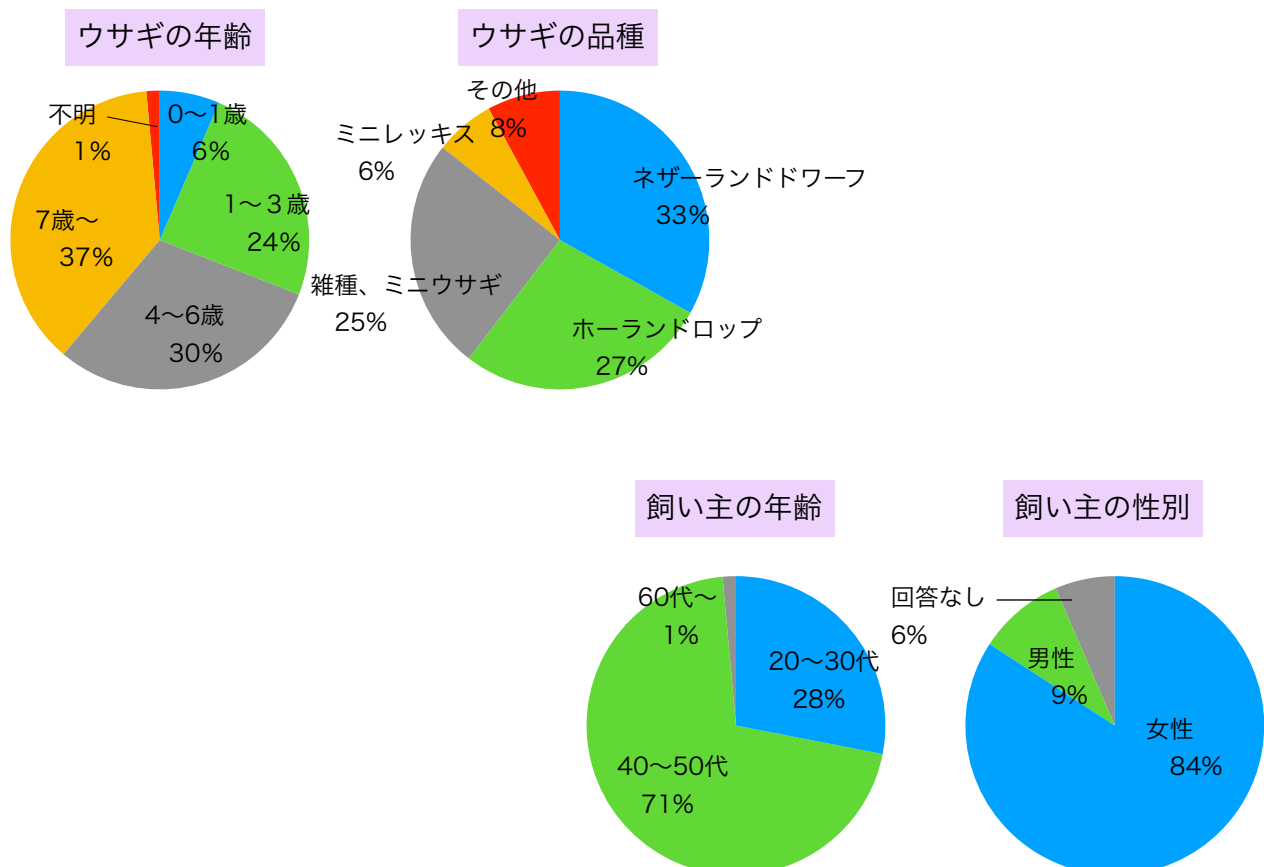
そこで、実際にウサギに内服薬をあげたことのある飼い主の皆様の貴重な意見を共有することで、今後の診療やご家族のサポートに役立てればと思い、今回のアンケートを実施しました。

<方法>

2022年8月～9月の2ヶ月間、ウサギの飼い主にオンラインアンケートを実施しました。アンケートは内服薬を処方した際の案内や、病院ホームページやSNSを通じて周知し、与薬方法や動物病院からの情報提供について質問しました。

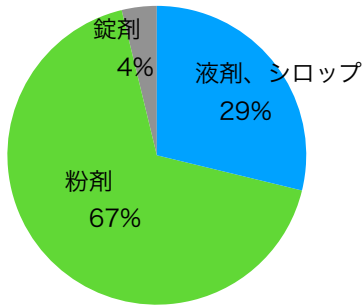
<結果>

アンケート回答者の内訳（回答者数139）

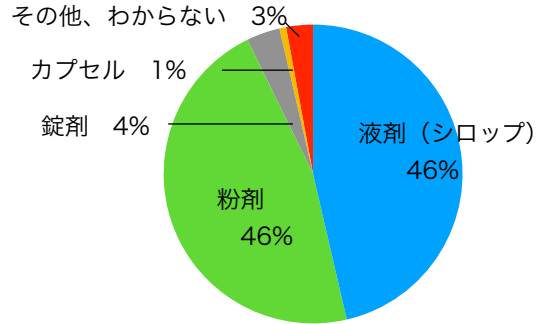


内服薬の剤形、投与方法について

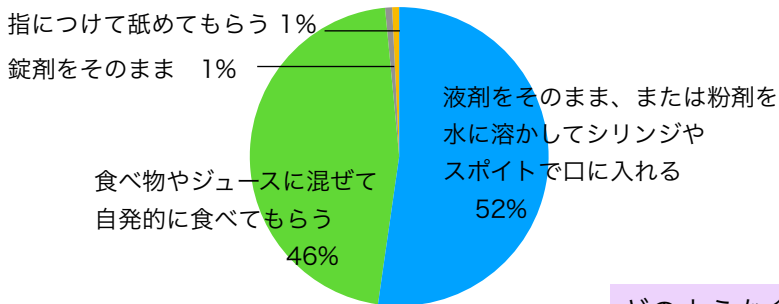
薬はどのような剤形で処方されましたか？



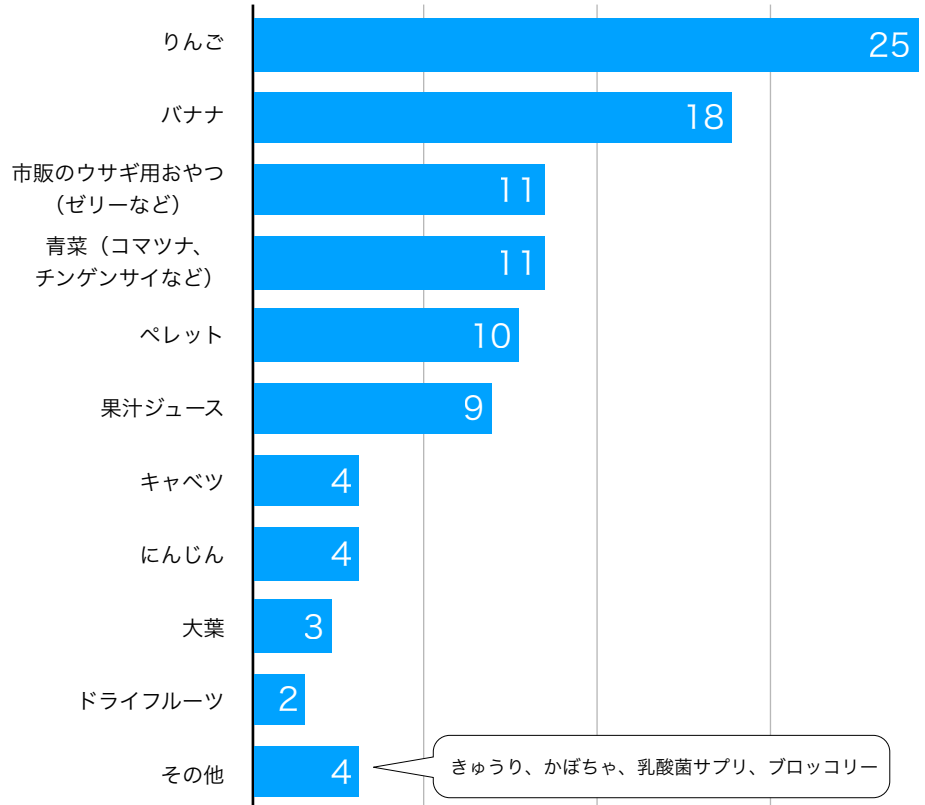
内服薬はどのような剤形で処方されることが好ましいですか？



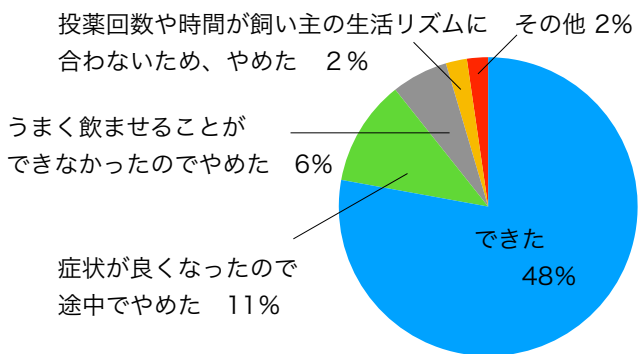
どのように投与しましたか？



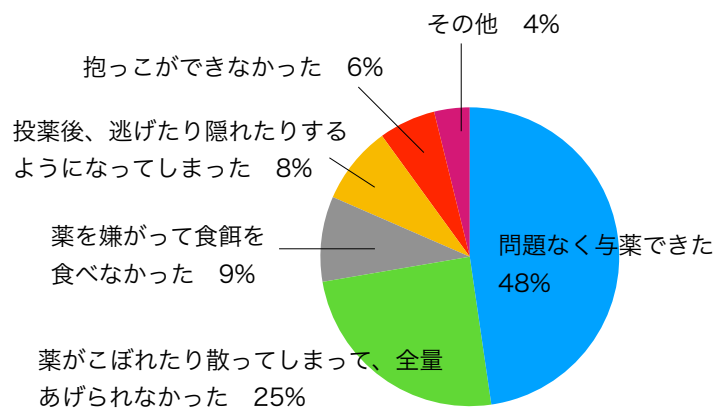
どのような食べ物を使用しましたか？（複数回答）



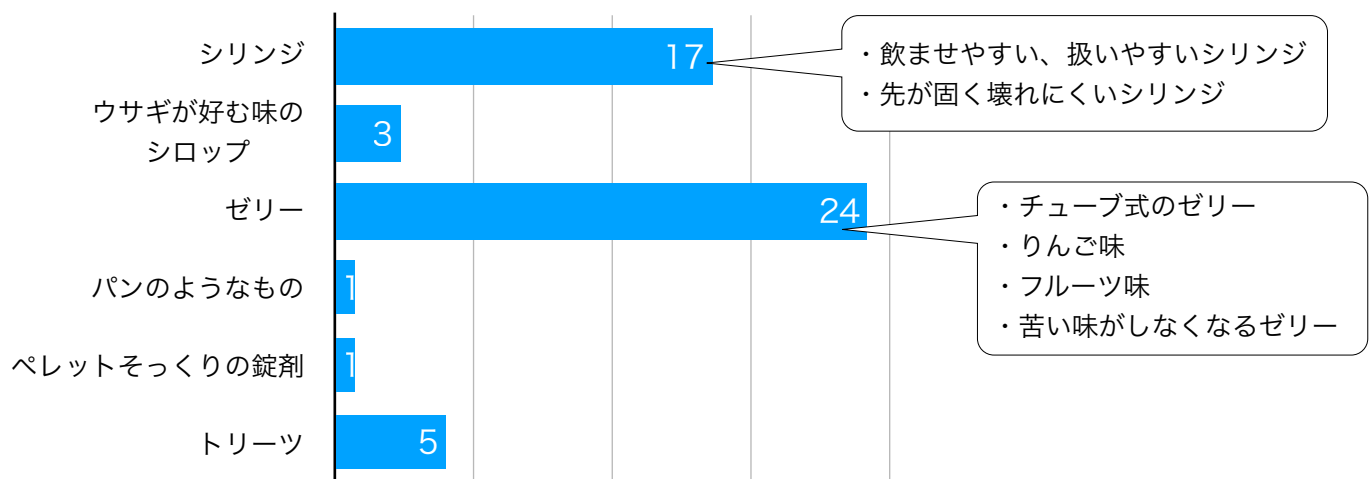
処方された期間、最後まで与薬できましたか？
また途中でやめてしまった場合、理由は？



内服薬の与薬に苦労したり困ったりしたことはありますか？

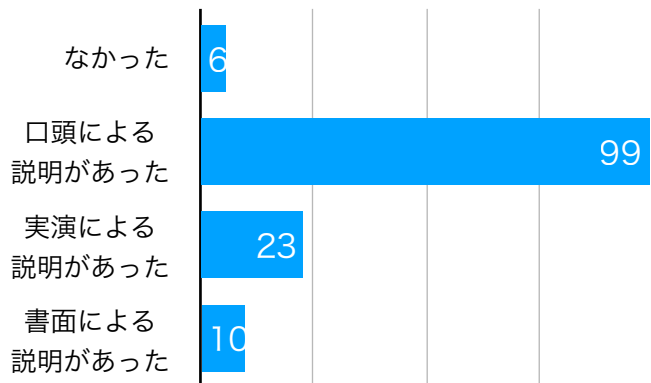


「こんな与薬アイテムが欲しい」というものがあれば教えてください（自由記述）

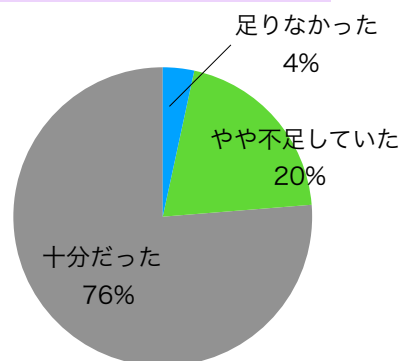


動物病院からの説明、情報提供について

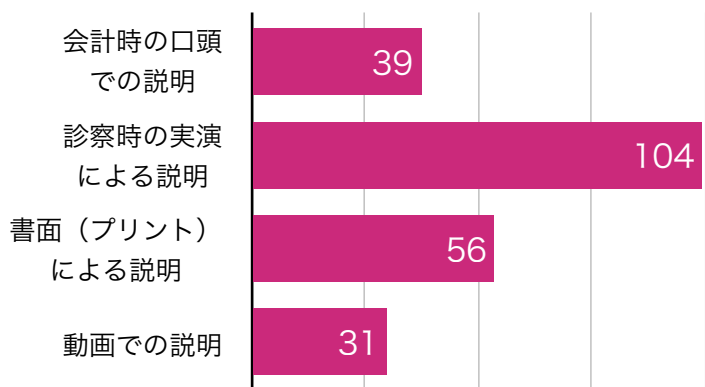
与薬方法について動物病院から指導や説明はありましたか？（複数回答）



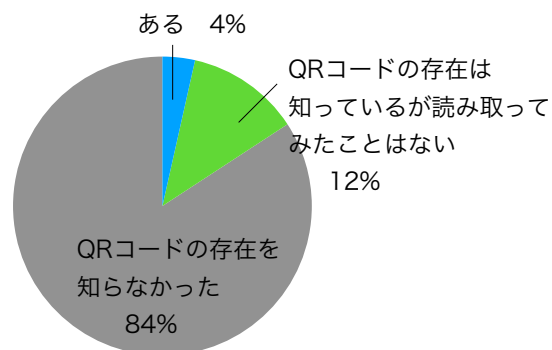
説明は十分でしたか？



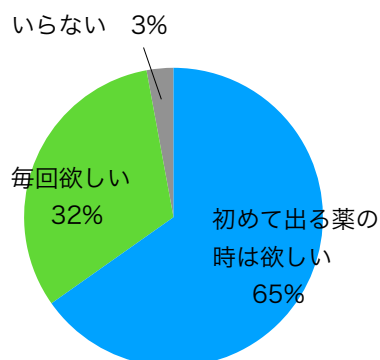
与薬方法について、動物病院でどのような説明や指導を望みますか？（複数回答）



当院の薬袋に与薬方法についてのQRコードを載せていますが、ご覧になったことはありますか？



薬剤情報提供書（薬品名、効能、副作用などの書面での情報）を希望しますか？



その他、自宅での与薬について気になること（自由記述、一部抜粋）

- ・飲ませた後は不機嫌になり、お互いストレスがかかる
- ・食べ残すこともあり全量あげられているかわからない
- ・暴れたり、逃げたり、抱っこが難しく、方法を教えてほしい
- ・果物のpHや酵素が薬の効能に影響しないか
- ・甘いものを与えすぎてしまわないか
- ・点眼や点耳薬は難しい
- ・うまくいかなかった時の対処法、フォローが欲しい など

<考察>

獣医療の発展とともに犬や猫の高齢化は進んでいます。ウサギにもそれが言えます。7歳以上の高齢ウサギが多いことが本アンケートの内訳からも伺え、動物病院を訪れ投薬治療を必要とするペットウサギは今後も増すことが予想されます。

ウサギに内服薬を処方する際、人用または犬猫用医薬品を体重に合わせた用量で調剤するため、粉末またはシロップに溶いて処方することが大半であり、飼い主はそれを食餌に混ぜたり、シリンジやスポイトで投与する必要があります。

動物病院スタッフは飼い主が適切に与薬できるよう説明やアドバイスをすべきですが、実際はウサギの性格や好物、飼い主の生活リズムやウサギとの関係性などはそれぞれ異なるため、今回のアンケートのように実体験を聞いて提案できる選択肢を増やすことは重要だと感じました。現在当院では、初めて薬を処方するときは診察時にあげ方の説明をする、会計時に説明プリントと投薬用シリンジを渡す、薬袋にプリントと同じ内容をWeb記事で見られるQRコードを薬袋に印刷する、という取り組みをしていますが、人によっては説明が不十分であることや、QRコードについてはあまり認知されていない、ということがわかりました。

「診察時に実演での説明をしてほしい」という意見が最も多いことから、対面での説明や指導で個々に対応することが求められていることを改めて感じました。

その上で、家でも見られるWeb記事や動画は情報提供ツールとして有用であると考えられるので、今後もコンテンツを見直し、提供していきたいと思います。自宅での実際の様子を動画撮影してもらうなど、ウサギ飼い主の皆様と協力して情報を共有することも検討していきたいです。

また、「抱っこの仕方を教えてほしい」という意見が多く、説明の必要性を感じていますが、ウサギは骨折しやすく、無理な保定は事故のリスクがあることも伝えなくてはなりません。そのことから、嫌がらず自発的に薬を食べてくれる方法の模索は大切です。

今後の展望として、投薬用ツールとしてゼリー状のおやつを希望する意見が多かったので、療法食メーカーに意見を挙げ、開発を期待したいと思います。

さらに、投薬方法だけでなく、薬の効能や副作用、飲み合わせなども多くの飼い主が知りたい情報であるということが本アンケートでわかりました。人医療では薬剤師が服用方法や薬効などを説明しますが、動物医療では愛玩動物看護師がその役割を担います。ウサギでは使う薬剤の注意点や用量が他の動物と異なるため、より専門的な知識も要します。的確な服薬指導や情報提供のために、愛玩動物看護師により高い知識が求められることはもちろん、動物種に応じた薬剤情報提供のシステムを電子カルテに構築することも今後、検討事項として挙げられます。

、疾患治療のためには欠かせない薬ですが、与薬が動物や飼い主の負担になったり、お互いの関係性を悪化させる要因になることのないよう、我々動物病院スタッフは今後も知見を深め、飼い主の皆様の声聞き、個々のニーズに合わせた医療を提供していくことが求められます。